

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人棚村重信の上告趣意第一点について

刑訴法二四条が憲法三二条又は三七条に違反しないことは、当裁判所の判例（昭和二三年（つ）第六号同年一二月二四日大法廷決定・刑集二巻一四号一九二五頁、昭和二三年（れ）第五一二号同二四年三月二三日大法廷判決・刑集三巻三号三五二頁、昭和二二年（れ）第四八号同二三年五月二六日大法廷判決・刑集二巻五号五一頁）の趣旨に徴して明らかであるから（昭和三四年（し）第一二号同年三月二七日第一小法廷決定・刑集一三巻四号四一五頁参照。）、刑訴法二四条の規定の違憲をいう論旨は理由がない。その余の所論は、違憲をいう点を含め、実質においては単なる法令違反の主張であつて、刑訴法四〇五条の上告理由にあたらぬ。

同第二点について

所論は、量刑不当の主張であつて、刑訴法四〇五条の上告理由にあたらぬ。

よつて、同法四〇八条により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり判決する。

昭和五五年九月二五日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	中	村	治	朗
裁判官	団	藤	重	光
裁判官	藤	崎	萬	里
裁判官	本	山		亨
裁判官	谷	口	正	孝